11月28日 月曜日 27日発行
昭和30年 西暦1955年

内外タイムス
THE NAIGAI TIMES

発行所 内外タイムス社
第3292号

天気予報

好転した18ヵ国加盟

一気に通過期す
メノン マルタン 両代表、作戦を協議

【ニューヨーク二十六日発UP=共同】インドのメノン、カナダのマルタン両国代表は二十六日、十八ヵ国一括加盟案を実現する方法について協議した。

米、安保理で可決楽観

【ワシントン二十六日発UP=共同】

日韓紛争
国連の調停期待
李大統領言明 日本、請求権すてよ


李大統領

ば日韓間の紛争問題が致命的に重大化するまで事態の発展を黙って見ているべきではない。国連は日本政府に両国間の平和を守るため韓国財産の八十五%を要求する財産請求権を放棄し、漁業境界線の設定に同意するよう勧告すべきだ。

一、韓国軍連合参謀本部の『李ラインに立入れば撃沈する』との声明は、単にわれわれの政策遂行の決意を強調しただけで新しい政策を出したわけではない。日本は国連に問題を提訴するというが、この問題をどこへでも訴えるがよい。日本はどこでも決してその訴えに支持を得ないだろう。

一、日本が望んでいるのは親善使節とかなんとかいう形で韓国を訪れることである。最近私は間接に日本政府高官を招待するようにとの要請を受けたが、何の役にも立つまいといってやった。

『三蔵法師の霊骨・台湾に到着』

中日親善へ寄与
日本で盛大な歓送法要


三蔵法師の霊骨を奉持して羽田を出発する一行、前列左から林代表、倉持師

これに先だち二十四日午前十一時から埼玉県岩槻市の慈恩寺霊骨塔境内で骨贈法要が盛大に営まれ、平野市長ら市内の仏教徒が合掌して歓送した。

法要には中国側から林頂立氏、董駐日大使、凌第一秘書、日本側からは霊骨奉持団長の県仏教会長倉持秀峰師、慈恩寺住職大島見道師ら百余人が参列した。倉持天台宗智山派管長が導師となり、桐の小箱に納められた霊骨は初冬の弱い陽ざしに映える十三重塔前に供えられ、五色の長旗や菊花、サザン花に飾られて読経のうちに焼香が進められ、地元の老婆たちは法悦の涙を流していた。董大使や林代表らは『これまで大島師の道徳をしのび中日親善、世界平和に寄与したい』とのべた。なお日本からの霊骨奉持者は次の五師で十二月五日帰る予定。

団長=倉持秀峰、豊山派宗務総長阿部祐伝、全仏常務長岡慶信同国際部長柳了堅、慈恩寺住職大島見道。

林代表は出発を前に羽田空港で次のように語った。

台湾数百万の仏教徒はこの度の日本仏教会各位が中国仏教徒に寄せられた好意に対し深く感謝している。今後とも仏の道を通じて両国の親善を図りたい。台湾は霊骨の到着を一日千秋の思いで待っているから、きっと盛大に歓迎され、御霊は台湾省民信仰の的となるであろう。今回の来日は二、三日間の滞在期間で時間がなく、そのうえ任務が任務だけに斎戒沐浴し、無事任務を終えるようとつとめたので旧知、旧友にもあいさつする余裕がなかったことを内外タイムスを通じておわびします。


林代表、蔡本社々長と懇談

中国仏教総会を代表して玄奘三蔵法師の霊骨奉迎のため来日した台湾省議会副議長、台湾農林公司董事長、聯合報発行人林頂立氏は二十四日午後三時過ぎ本社に来訪、旧知の蔡本社々長に来日の挨拶をしたのち懇談した。【写真は蔡本社々長と握手する林代表㊨】

戦争中南京で発見
正式許可を得て持帰る
日本に安置された経緯

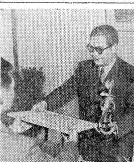
日本埼玉県岩槻市慈恩寺にある三蔵法師の霊骨塔は民国三十九年建立され、現在は新たな霊地となって参拝者が絶えないが、中国からどうして霊骨がこの慈恩寺に移されたかについて、賛仰会発行の『玄奘塔建設由来記』によると次のような事情がある。

○…三蔵法師は日本では推古天皇の十年、聖徳太子が摂政のころ河南省陳留に生れ、インドに渡り仏跡を巡拝、各師を参訪してボン(梵語)原典の収集につとめ、帰って原典の翻訳につとめ六十四才で昇天するまで漢訳の大業を完成、また当時の中央アジアとインドの地理を明らかにし"大唐西域記十二巻"の撰誌もある。

○…中日戦争中の民国三十一年十二月二十三日、日本軍が戦死者を葬るため南京中華門外の金陵兵器廠を整地中、たまたま石棺に収められた遺骨や経文などを発掘し、これが三蔵法師のものと判った。遺骨は武帝などの仏教に対する迫害などがあって、仏教徒がかくし回り行方が分らずにいたので発見は大きな反響を呼んだ。

○…このころ日本仏教会から中国大陸に派遣されていた倉持秀峰師らが、時の汪偽政権に願い出て分骨を日本に運び、東京都内に安置したが空襲の難を避け、法師がインドから帰って原典翻訳を完成するまで住んだ長安の慈恩寺と同名のゆかりから慈覚大師開基の岩槻市慈恩寺に民国三十七年十月下旬移された。

○…台湾では分霊骨を南投県の景勝地、日月潭湖畔に台幣七、八百万円(日本円約九千万円)をかけて建立した十三重の霊骨塔に納めたうえ、豪壮な寺院も建立すると、来日した林中国仏教総会代表がいっていた。



中村錬武館長
蔡社長に感謝

最近空手の発展普及は目覚ましいものがあるが、数ある空手道場のうちでも指導的位置にある東京錬武館では、蔡本社々長(空手八段柔道七段)が空手道の普及発展に尽した功績にかんがみ、去る二十日中村館長の名で蔡社長に対し感謝状と記念品を贈った。【写真は中村館長から感謝状を贈られる蔡本社々長】

粋人酔筆



ラシャメン

田辺禎一

ある人がこういっている。

『今の日本の若い女は怪しからん。かつての敏叙であったアメリカの軍人に、平気で貞操を提供して、しかも得々としている。昔の日本の女は決してそんな魂の腐ったものはいなかった』

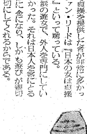
その証拠に、唐人お吉がハリスに貞操を提供したので、他の女はすべて彼女を卑賤視したとか、または横浜の岩亀楼の遊女喜遊が、『ふるアメリカに袖は濡らさじ』という名歌を詠んで自殺して、やまとなでしこの意気をみせたとかいうようなことを挙げている。

ところが事実は大きな相違で、ペルリ来航当時、日本の若い女は大歓迎して、アメリカ人に喜んで貞操を提供した者が非常に多かったので、ヴァン・リードは『日本の女は貞操観念がない』といって嘲っている。

当時の横浜の遊女で、外人を専門にしていたものが多かった。それは日本人を客にとるよりも遥かに金になり、しかも遊びが親切で、女を大切にしてくれるからである。

喜遊が自殺した話などは全然うそで、それは津和野藩士で、勤王の志士だった椋木八太郎という武士が、横浜に行って外人跋扈(ばっこ)の事情を調査して、討幕の材料にしようと思い、横浜に滞在中、岩亀楼に遊んで、喜蝶という遊女に馴染んでいた。この喜蝶は、もと江戸の吉原に出ていたが、馬橋があって横浜に住みかえたものであるが、江戸では外人を異敵と思っていたので、外人を嫌い、常に外人のことを罵倒していたので、椋木は喜蝶を気概のある日本女子の見本のように思っていた。

その少し前、すなわち中国の咸豊七年(安政四年)に英仏連合軍が中国の広東を占領した。その時、広東の遊廓に李宝卿という絶世の美人の遊女がいた。



フランスの士官がその遊廓に入り、李宝卿を見てその美貌に魂を奪われ、数万金を与えて自分の欲を満足せしめようとしたときに、宝卿は『あなたはわが国の軍人を殺し、わが国土をじゅうりんした敵である。中国の女は死んでも敵に身を任せない』と叫んで、その金をフランス将校の顔に叩きつけ、暴力を防ぐために用意の毒を飲み、血を将校の顔に吐きかけて死んだ。

この勇しい話がわが国にも伝わり、椋木はこの話を聞いて大いに感激し、『中国の女は偉い。それに反してわが日本の女はどうか日本にもそれくらいの女が一人でもあって欲しいものだ。それなのにただの一人もいないのはまことに残念だ。後世に聞こえても国の恥だ』と思い、それには自分の好きな喜蝶の物語を作り出し、自分で『ふるアメリカに袖は濡らさじ』云々の和歌までつくって、文久元年十一月に、その作り話を世にひろめたのであって、実際そんな事実はなかった。

遊女だけならまだしものこと、横浜では町の娘まで、外人に貞操を提供することを好み、今日の洋パン(当時はラシャメンといった)になって得意になっている者が多かった。

そのことをヴァン・リードは罵倒して『日本の女の子は性欲に生きている。これに反して中国の女は性欲よりも、愛国心で生きている』といっている。まさかそれほどでもなかったろうと思うが、要するに日本の女は愛国心よりも、国際的であったためか、相手がどの人間でも、喜んで貞操を提供するという傾向があるらしい。

最近私はある若いオンリーさんから『私の彼氏のヌード写真を撮したが、写真屋に現像を頼みに行くことが出来ないから、持っていって現像して貰ってくれ』と頼まれたので、何の気なしに現像を友人に頼んで、出来たのを受取りに行ったところ、それは外人将校の偉大なシンボルの大写しの写真であった。私はとんだ恥かしい目を見たが、しかしその女は『一旦外人に身を任せたら、日本人などはおかしくって』といっていたが、やはり日本の女はヴァン・リードのいうように、何時の時代でも、国際的性生活を楽しむ性質があるものらしい。

週間市況 (26日)

りんご (単位円)△青森紅玉、寿四・八貫一、〇〇〇―一、四五〇△長野紅玉、松、同一、〇〇〇―一、二五〇

砂糖 上白は末端の消化待ちながら、荷動き極度に悪く、しかもメーカーが遂に五十銭方出し値を引下げたため地合さらに悪化、現物が六、七十銭方斬落、当月は八十銭、来月が七十銭方下げてまた六十九円台割れ。ほか弱含み。(市中標準品、斤、単位円)

◇現物(問屋仲間)△上白六八―六八・二△上双名目七五・〇△中双名目七四・〇△グラニュー名目七三―七五
◇先物(上白)△十一月六八・二△十二月六八・七

塩干魚 (築地本場・貫)
△塩さけ(北海)一、〇二〇―一、〇八〇△塩たら(同)二〇〇―二五〇△無頭たら(同)二二〇―二三〇△塩かずのこ(同)二、四〇〇―二、七〇〇△助宗子(同)七五〇―一、五八〇△すたこ(同)二六〇―三七〇△煮干(近海、常盤)三五〇―六〇〇△白素干(東海)八五〇―一、〇五〇△干さんま(近海)一枚二―九・五△干かます(同)同一八―一九△さば(同)同一八―二二△干あじ(同)同二、八―二、五△干むろあじ(同)同六―一三△丸干いわし(関西)三五〇△桜えび(東海)四〇〇―八〇〇△焼ちくわ(稚内、青森)四貫一、〇五〇―一、二五〇△なると(東海)一本一五、五―二一△かまぼこ(小田原)小板一枚六九―九〇△同(同)中板同一一五

日本チームの陣容決る
第二回アジア野球

十二月十日マニラで日本、中国、フィリピン、韓国の四ヵ国チームで行われる第二回アジア野球選手権大会に出場の日本チームは、東京六大学から選抜して二十五日次のとおり決った。

▽選手団々長=藤田信男(日本アマチュア野球協会理事、法大OB)
▽役員兼審判=伊丹安広(同、早大OB)片田宣道(同、立大OB)神田順治(同、東大監督)
▽役員兼渉外=加藤毅康(日本アマチュア野球協会渉外担当、早大OB)
▽監督=島岡吉郎(明大監督)
▽顧問=森茂雄(早大監督)
▽マネジャー=加納伸三(明大OB)
▽主将(兼捕手)=土井淳(明大)▽投手=秋山登(明大)木村保(早大)杉浦忠(立大)原田靖男(東大)▽捕手=酒井敏明(早大)▽一塁手=中田昌宏(慶大)近藤和彦(明大)▽二塁手=佐々木信也(慶大)▽三塁手=長島茂雄(立大)▽遊撃手=岩岡保宏(明大)中野健一(法大)▽外野手=宮崎諒郎(早大)森徹(早大)沖山光利(明大)衆樹資宏(慶大)

ないがい川柳
吉田機司選

百姓が育てても特選紳士服　北　松本いはを
職のない人と思えぬヘイマンボ　目黒　望月かな女
富士泰然オネストジョンに身構える　足立　矢吹　日進
飲んでいる横でせわしい下戸の箸　市川　松沢　敏行
プーサンの綽名で課長入が好い　千葉　中林　滋司
ローカル車はにかみあった二人連れ　佐野田　口　亘
親子して電車に眠るリクレーション　千代田　南　渡　波

投句歓迎 用紙ハガキ(五句以内)住所氏名明記。締切随意。入賞句に賞金呈。本社編集局川柳係あて。

内外抄

ソ連が水爆実験を確認。ネタがあがってるので白状の外なかったが、やっぱりあわてるベイ。

◇

興安丸の問題で『法』と『政治』との対決。とも角暗礁に乗り上げている船に横車は押せまい。

◇

日本の国連加盟問題を『賠償』の取引きに利用しようとする比国、どうかと思う。

◇

『外蒙人民共和国』の国連加盟にモチ反対の国府に拒否ケン抜いてくれるなとは、難しい注文。

◇

公労協の闘争で列車や電信や郵便に相当な打撃、『行き過ぎ』が『停滞』となる。困る。

日曜論評
占領のアカを落せ

鳩山首相は第三次内閣の成立に当って行政機構を国情に適応するよう全面的に改革すると語り、また行政管理庁長官を兼任した河野農相が『行政機構改革は現内閣の最大施策の一つであって、政治生命を賭して断行する』との訓示を行った点から見ても、新内閣の意気込み方が十分にうかがわれるのであって、今は実力も出来たことだから、今度こそは是非とも実行させたいものである。

行政改革は吉田内閣以来たびたび試みられたが成功しなかった。官僚の反対や政党の狎合いで潰れたり、中途半端のもので終ってしまった。要するに政党の腐敗と政治力の薄弱とに因るのだが、絶対多数を擁する『清新強力』な自由民主党が出現したのであるから、年来の懸案を解決し得る機会が来たわけである。

日本のような貧乏国で、行政費が人件費、物件費を併せて三千億円により、公務員が中央、地方を通じて三百万人近くにもなるのだから、行政整理は何としても必要で、とくに窮乏の極にある地方財政を根本的に救う道は、機構改革による簡素化をはかるよりほかはないであろう。だが、今度の行政機構改革のねらいには人員整理の意味ももちろん多分に含まれねばならないが、われわれが最も期待するものは戦後の占領政策のためにゆがめられている制度と機構の是正である。

行政改革が単なる機構いじりに終るだけでは、それこそ官僚の反対に手を焼くだけが落ちで大した効果はない。そこで今度は自民党の政調会でも大がかりな改革案を用意しつつあるようだが、何としても国情にそった新機構を打出さずばなるまい。今日の地方財政の行詰りが占領政策に従って生れた膨大な機構に由来するように、中央、地方を通じて国情にそって機構が簡素化されることによって、財政的にも救われるのみならず、本来の『日本の姿』が再現することにもなるのだ。

いうまでもないが、機構改革は簡素化のほかに新しい時代の要請に従って新機構をも設けなければならない。例えば科学技術行政のために有力な中央機構を新設するなどがそれである。わが国が完全な独立国として立って行くためには、現存の防衛機構について再検討されなくてはならないし、完全な経済自立も必要であるが、これらの現行に比較的実行の容易な機構の改革によって独立国としての面目発揮に努めるべきで、これこそ第三次鳩山内閣に負わされた最も大きな義務の一つだと思う。要するに戦後十年いまだお拭い去られていない占領のアカをきれいに落し実情に即した機構に改めねばならない。

青春無宿 (201)
大林清 作
下高原健二 画

焔 (七)

大淵の事務所は、戸がしめきられていて人の気配もなかったし、その二階の大淵が使っていた部屋のドアには、鍵が下ろされていた。

『そこの警察までいっしょに来て下さい、さっき話した放火の疑いのあることを、一応届けておきますから』

そういう次郎に、光代はついて行った。

警察は東劇前の堀に沿って行ったところにあった。

少し手間がとれるかも知れないと云って、警察の玄関をはいって行った次郎は、なかなか出て来なかった。

愚連隊連中にはむろんのこと、大淵にも、前から注意していたようなことを洩らしていました。すぐ電話で手配していたようですから、何か手を打つつもりなんでしょう』

『よかったですわね』

光代も明るい笑顔になった。

『ブルドックの太を罠の中へ投げ込んだとは云いませんでしたよ、うっかりしゃべると、こっちが留置されるかも知れんですからね。はっはっは』

次郎は快活な笑い声をたてて、

『行きましょうか』

と、自分から先に橋の方へあるきだそうとした。

光代は立った途端、それほどでもなかったのに、そうしているうち足がしびれて来て、踏み出すのといっしょによろめいた。

『あぶない』

次郎が急いで腕をささえた。

『すみません、足がしびれて…』

自分で自分がどうにもならずに次郎へ崩れかかりながら、光代は全身を熱くした。

『大丈夫ですか、あるけますか』

『ええ、大丈夫です』

そうは云ったものの、次郎にすがりつかなければあるけなかった。



光代ははじめ堀端の街路樹に、身を寄せるようにしてただずんでいたが、それにもあきると、そこから東銀座の側にかかっている橋の上に立って、灯影の美しい東劇付近の夜景を見まもったり、警察の玄関に眼のとどくかぎりの対岸をあるいてみたりした、しまいにはそれに疲れ、もとの街路樹のところへもどってうずくまった。

次郎が出て来たのは、そんな時だった。光代の姿がすぐには眼にはいらず、玄関の石段を下りたところであたりを見まわしたが、光代が立ちあがったのをみとめると、大股に近づいて来た。

『待ちくたびれたでしょう、なかなか離してくれないんで閉口しました。まさかに外に人を待たせてあるとも云えなくって』

次郎はむかいあって立ち、労るように笑った。

『どうでしたの?』

『今のところは別にどうということもないです。むこうはただ僕の話を聞きおいた程度ですが、あの

次郎は光代の腕を抱えこむようにしてあるきだしながら、息苦しくなりでもしたように黙りこんだ。

光代は次郎が自分を愛していると云った光子の言葉を、突然思いうかべた。不自然に呼吸がはずんで来た。

『あなたはこれからどうするんです』

次郎がかすれたような声でいた。

ドジ踏む老スリ師

前科18犯、年貢の納め時

もうユビ先もダメ

〝銀次と張り合った〟は昔

[illegible]



老スリ師、伊藤保

いきさつ

[illegible]

……野、大網両公安官は直ちにこのスリを尾行し始めた。

十九日朝十時前、埼玉県深谷市東方の農業長瀬広太郎さん(五六)が十条にいる二男の結婚式に出席するため妻と二人で同線に乗った。混雑の中で、長瀬さんの前に一人の紳士が立っている。右手に週刊誌らしいものを包んだ風呂敷包みを持ち、腕組みするような格好で、なぜか風呂敷包みを左の腕前に突出している。電車が揺れた拍子に長瀬さんは着ているオーバーの左の内ポケットに入っている他人の手を、ふと感じた。そこには千円入りの財布が入っていた。『何をする』このときを待構えた両公安官がすかさずこの現場を押さえた。こうして前科十八犯の伊藤保は捕ったのだが……。

性格

親分ハダで気まえのよい男

去る十九日捕った時は、さすがに悪びれず〝年貢の納めどき〟と観念してか彼を捕えた星野公安官には『俺が死んだら線香の一本も手向けてくれよ』とさびしく笑っていた。

彼が公安官に語った半生を再録してみると

星野さん、お前さんは随分トッポイ男だ。おれはあんたが尾行していたのをちゃんと知っていた。だが尾行の仕方が下手だネ。最初のつぎはマフラーをかくしておくものだ。あんたのように始終マフラーを巻いてたらすぐ気づかれてしまうよ。しかし赤羽線をかせぎ場にするスリはおれ一人だけだが良く判ったものだな。おれは相手に体を二度ぶつけたら絶対に失敗することがない。その点自信があったネ。話は別だが昔はよくしたものだった。おれたちのスッたものでも、被害者が本当に困っているときはすぐ返してやったものだった。ところが今はそんなことはクスリにしたくもない。人情味のない世の中だナ。おれももうこれが最後だ。やはり年には勝てない―

半生

暗かった幼少年時代

三十にしてギャンブル狂

[illegible]





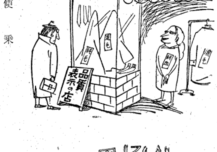
頭に来たのではありません

モードも凝り過ぎると、ツイには頭にくるもんですナ…なんて、皮肉をいっちゃ、彼女のために可哀そう。これなん、このほどロンドンで開かれた一九五六年帽子のファッション・ショウに、特別出品されたケッ作二つ。帽子より彼女の方が素敵じゃと仰せある方にまず紹介申上げておきますなら、モデルはエリザベス・ショーワス嬢なる南欧系の美女。で、㊤が『ラ・パロマ』と洒落まして、ご覧の通り編み籠のなかへ、ニワトリ一羽を鎮座させました。お腹が空いたら焼いて食べようなどの、さもしいコンタンじゃありません。つまり、忙しいご時世なんですから、彼氏と逢う瀬…ときもタイム・イズ・マネー、およろしいところで頭上のニワトリが刻を告げてくれる。万事がニワトリまかせという次第。㊦は『去らば冷戦』ってんで、昨今の国際政情をもじったナカせるスタイル。ターバン巻きにハトが止ったところなんど、こりゃ、中近東向けですな。もっとも、このハト、いつ飛び立つか知れたものじゃありませんので、いつもハラハラ。要するに、私と彼氏の愛情よ永遠なれと祈りをこめたのがこのスタイル。【写真はキーストン特約】

漫画日展

第廿回

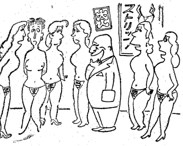
◇投稿歓迎◇　締切日なし▽発表は日曜(本欄)木曜(三面)▽優秀作品に特選の制を設け入選十回または特選三回パスの方は『特別会員』とし『課題』などで活躍していただきます▽なお特選に特賞入選作に賞金を贈ります。



便乗　くろだ・のり(入選二回)



発令日本　鈴木忠三(入選六回)



『そいつを外したら要求通り出すよ』　望月一虎(入選五回)



二大性党時代　勝木敬太(初入選)



名スカウト　『スゴイ!今から契約しとこう』　高木草平(入選二回)

蛮流世界譚(モロッコ)

〝モロッコ行きはご免だ〟と叫びながら、パリはシャンゼリゼーをねり歩くフランス兵のデモ行進が、ここ二ヵ月ばかり派手に続いて、当局の手を焼かせています。モロッコの暴動が急を告げ、折角の除隊が延期てな始末で、すっかりムクれた彼らでした。『待遇もよくしてやる、酒も女も勝手放題だ』と部隊長は説得これ努めるのですが、不満は治まりそうにありません。『貴様たちはそれでもフランスの軍人か。たかがモロッコの土民軍に恐れをなしたとあっては、三色旗が泣くではないか』ついに怒った部隊長、思わず大声叱咤しましたが、なかでピエール一等兵、うらめしそうに部隊長のヒゲ面をながめながら、こう抗議したもんです。『土民軍のヘロヘロ弾が恐いなんてとんでもない。あっしたちの恐いのはモロッコ娘なんで。あいつらの夜襲ときたら、まるで火焔放射器を浴びるようなもんでさ。おまけに、こんど派遣された、この前折角踏み倒して帰った酒場の借りまでふんだくられますさァ』

あすの運勢　高島象山

=十一月二十八日=

▲一月生―物事に方針を誤り自ら失態を生じ或は災禍にあいやすい
▲二月生―虚心坦懐ことに当れば順調にして利達あり安楽を得る也
▲三月生―何事も邪念と執着に禍いされ易い平易に融和的によろし
▲四月生―内に口舌不和あり外に突発的のことにあい易い注意肝要
▲五月生―稼業大事と保守的に努力すれば無事なり社交外交は不利
▲六月生―内実整なわず内輪に不和口舌あり婦人は家庭に悩みあり
▲七月生―表面は順調に進展の義あるも心身不安生じ易い注意肝要
▲八月生―物事急がず焦らず辛抱強く努力すれば次第と進展する也
▲九月生―物事に兎角苦労多く困難生じ易い慎重に進退すれば無事
▲十月生―物事不如意にして不結果を生じ易い旧態維持に努力せよ
▲十一月生―沈着なる態度を以て倦まずたゆまず努力して安泰なり
▲十二月生―物事に慢心と剛情をすて正義を以て保守的にして無事

モダン歳人記

源平布引滝初演

寛延二年十一月二十八日、大阪竹本座で並木千柳、三好松洛作の人形劇『源平布引滝』が初演された。これは『平家物語』や『源平盛衰記』に取材したもので、宝暦七年、大阪嵐座で歌舞伎にもなり、その三段目『九郎助住家』の場はいまでもよく上演される。

木曽義賢は後白河法皇から賜った兄義朝の遺品白旗を探しに来た平清盛の使者を追払ったが、平家の大軍に囲まれ、多田蔵人行綱と娘の待宵姫を鳥羽へ落してやり、身重の葵御前と白旗を百姓九郎助に頼んで自殺する。九郎助の娘小万は敵に追われて、白旗を持ったまま琵琶湖に飛び込み、竹生島詣の平宗盛の船に救われたが、斎藤別当実盛に白旗を持った腕を切られ、再び水中に落されてしまう。九郎助はある日孫の太郎吉と網を引いていて、白旗を固く握った娘小万の腕を引揚げる。一方で斎藤実盛と瀬尾十郎は葵御前を捕えて詮議するが、源氏に仕えたことのある実盛は、葵御前の生んだ男の子を、駒王丸と名づけ太郎吉を手塚太郎と名乗らせてその家来とする。この駒王丸が後の旭将軍義仲で、源氏を再興するというのだ。(鮭)

東海毒婦伝　青とかげ (142)

野沢純　土端一美画

街道往来(四)



せっかくのホシを取り逃がした―と頻りに残念がっているところへ、折からそこへ入って来たのは、代官手付の役人二名。いでだちを見て、

『旦那―こんちは、何ぞご用向きで?』

床几(しょうぎ)に腰をおろしていた、岡っ引の長八が、あわててペコリとお辞儀をすると、

『おゝ長八か―ちょうどいい処で出逢った。実は今、江戸の分限者が、上方への道中、三島神社へ参詣されたき由、そちはこの辺くわしかろう。よって案内をしてくれぬか』

『へい、かしこまりました。お安いご用で―旦那、時にその江戸のお客さんといいますのは?』

(ぜげん)や金貸しもやりながら腰には十手―とくれば、まさに四足五足の草鞋ばきには違いないさし向き大場の長八などは、そうした部類の岡っ引。

『旦那―お茶をどうぞ』

と茶店の床几をわがもの顔に、世辞と機嫌をとっているところへ馬の蹄(ひずめ)の音がした。

『おお、あれへ参られた』

飲みかけた茶をおいて、役人二名が早々出て行く。長八もあとから続く。

見ると、小荷駄馬に荷を積んで、お供が二人。あるじは駕籠に揺られて来る。

やがて、お幾の茶屋の前でとまると、中から降り立ったのは、四十がらみの、見るからに精力のみなぎりわたった旦那風。

『おっつけこれへ参られる』

『ああさようで。承知いたしやした』

もう一度ペコリとお辞儀をする。こういう手合いに限って、上役人の機嫌をうかがうコツは十分心得ている。

その反動が、民百姓へ反り身となってあらわれて来る。

代官手付の役人とても、八州回りの出役と同じこと―たかだか年に二十俵二人ぶちくらいの薄禄では、まともにやっていけないところから、いきおい地もとの博奕打や、渡世人を手先に使って働かせる。

むろんただで使うのだ。その代り『御用十手』というものをあずけておく。俗にいう『二足の草鞋』だ。なかには四足も五足も履いているシロモノもある。

表向きは女郎屋で、裏へ回れば博奕打ち。まだそのほかに女衒(ぜげん)…

いや、それよりも、恰幅(かっぷく)のいい体つき―赤らみがかった顔を見て、お幾は思わず、口の中で、

(あっ!)

と叫んだ。

江戸の豪商―やげん堀の酉屋万兵衛ではないか。

万兵衛といえば、安政二年の大地震の、どさくさまぎれに、権謀術策をもって尾張屋の身代から、家屋敷から焼跡の敷地まで、おのが手中におさめてしまった老獪(ろうかい)無比な男である。

しかも、没落した尾張屋の一人娘に目をつけて、おのが手いけの花とばかり、囲って世話をしようとしたことさえある。忘れようとて、忘れられようか。

しかし向うはお幾を知らない。知らないから悠然と、駕籠から降り立ち、迎えの役人二名に向って『いや御所用中大儀をかけます』おっとりと会釈をするのへ、

『さァこちらへ―』

と役人は、下へも置かぬ鄭重ぶり。

役人でさえこれだから、上になって、こうなると、岡っ引の長八ごときは、まるで三ん下奴である。

(江戸の大尽、分限者とはこの男―酉屋万兵衛のことであったか)

お幾は黙って見つめるばかりだ。

内外タイムス愛読者サービス

箱根・熱海へ

750円で〝下記旅館で〟一泊二食付

元箱根唯一の温泉　駒ヶ岳温泉ホテル　神奈川県足柄下郡箱根町 電話芦ノ湯28・箱根町49・110

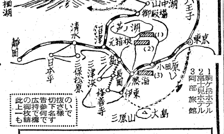
逆富士名所の見える唯一の宿　富士見ホテル　神奈川県箱根町芦ノ湖畔 電話箱根町109

三方海・どの部屋からも海を望む　阿部旅館　熱海湯泉海岸埋立角 電話熱海3561・3562・3048

中食 三品付 飯香付 一〇〇円　五品 飯香 二〇〇円　六品 飯香 三〇〇円　日帰りの方は休憩料(入浴席料)一〇〇円

=御案内=
○大広間百二十畳敷舞台付外三ヵ所
○御宴会には当館専属バンドが演奏美人余興係十数名の手踊り、歌謡曲、俗曲等の無料大サービス
○大浴場、家族風呂等多数・湯量豊富
○お部屋は次の間付和室又は洋室(大小四十室)
○大ダンスホール、ピンポン場、テレビ、麻雀等娯楽設備完備
○毎土曜日は二百円増
○十月一日より十一月十二日迄は百円増

お問合せお申込は 直営東京出張所　東京駅八重洲口前右側丸八運送店二階 電話(28)4702



1 駒ケ岳ホテル　2 富士見ホテル　3 阿部旅館

此の広告切抜の上御持参下さい一枚で何名様でも結構です

1.550円で安くて便利なクーポン旅行

下記コースの(逆回りも可)東京より東京迄の国鉄、私鉄バス、汽船一切の回遊交通費と左記3旅館の内で一泊二食付一切

A 清水、日本平、久能山、三保松原回り
B 沼津、三津浜、長岡、修善寺、伊東回り
C 芦の湖、山中湖、河口湖、相模湖回り
D 伊東、大島、三原山回り(100円増)

義宮様あす晴れの成年式

装束すがたも満点
およろこびの両陛下


あす成年式が行われる義宮さま＝義宮御殿にて

義宮さまは二十八日満二十才の誕生日を迎えられ、この日めでたく成年式をあげられる。御両親陛下をはじめ御兄妹の皇太子さま、清宮さまからはお祝品を贈られ、また陛下のお出しになった『秋天（あきのそら）』という題で両陛下、皇族、宮内官からおよろこびの歌が義宮さまに贈られる。また数多いお祝品のなかには全宮内官が五十円ずつ出し合った食器セットもある。

慶祝を受けられる義宮さまは晴れの式服も古式装束の未成年用、成年用と二通りが整い、冠の着け方笏（しゃく）の持ち方、木沓（きぐつ）のはき方までも練習を重ねられ、きょう最後の練習には皇后さまもおいでになり、両陛下は大層なおよろこびのようである。

二十八日の成年式は午前九時、賜冠の儀ではじまる。義宮さまはモーニング姿で陛下のお使から垂纓（すいえい）の冠をいただき、ついで、十時加冠の式は西の間で行われる。義宮さまは未成年の装束、陛下も晴れのお式のため小葵（こあおい）御紋の白い装束、皇后さまは小袿切袴（こうちきぎりばかま）という古式のお姿で式場に臨まれ、皇太子さま、清宮さま、各皇族方など御近親の方々の前で成年になられたおしるしの冠を着けられる。

かくて成年になられた義宮さまは成年の装束姿で十一時半賢所に御参拝、午後二時には両陛下に公式御対面の朝見の儀、三時半陛下から大勲位菊花大綬章が義宮さまに授けられこの日の儀式を終る。

宮家創立は卒業後
激動の少年期 思い出の数々

義宮さまはこうして成年になられるが、これまで過された二十年は戦争を中心に大変革期であった。幼少のころは弱い方で両陛下のなみなみならぬ御慈愛のうちに成長されたが、学習院初等科四年のころは学童疎開もされ、戦後は新日本立直りのアラシの中で御殿もなく宮内庁庁舎に仮住いもされるなど激動の少年期を経験された。そして深窓から出て民主化の日常を過されるようになったが、学友とは学園外でも交際もされ、家庭を訪問しては

友が母のもちてくる茶を眺めつつともにすまざる母をし思う

などと、和気あいあいの友の家庭をうらやましくも思われ、それだけに御両親陛下を一層したわれた日もあった。心優しい義宮さまは多摩墓地に元御養育掛外山豊子女史の墓参にも行かれ、学友が病気すると侍医を呼んで兄弟のように心配もされたり、他の学友が入院した時は電車でお見舞にも行かれた。

学習院の近くの喫茶店には学友と一緒に行かれることもあるが十月の末ジュニアー・コースの最後の試験を終った骨休めには『宮さま』の肩書を秘して学友と会津へ市民旅行もされた。そのときなど側近が間違って帰りの切符を渡したため上野駅の改札で引っかかり、まごつかれたこともあった。車中では香川京子たちの映画ロケ一行と乗り合せられた。鶴ケ城跡では雨の中で"荒城の月"を合唱し、そして野地温泉に着かれた時ついに『宮さま』であることが暴露、宿から感激のサービスをうけられた。これも義宮さまには学生生活の楽しい思い出として長く残るだろう。最近は全くお元気な義宮さまである。目下学習院大学理学部化学科二年だが宮家を創立して独立されるのは大学卒業後の予定である。

父母亡き後の自暴自棄
爪はじきされ罪の淵
若きアベックどろ 裁きの庭に悔悟の涙

東京地裁刑事第二十一部の法廷で去る二十四日手錠をかけられたまま、これも手錠姿の夫の胸にすがって『こんどこそはきれいに足を洗いましょう』と泣きくずれて開廷を待っていた若い夫婦がいた。臼井検事が朗読した起訴状によると埼玉県南埼玉郡生れ三ツ木博(二〇)同人の内縁の妻、同県北足立郡生れ小島百合子(二二)で、八月下旬から十月初旬までの間に北区中十条よし家旅館をはじめ浅草、渋谷、中野、品川、池袋などの旅館を専門にお客の財布、貴金属、衣類など三十六万円相当の泥棒を働らき、池袋の木村家旅館では千二百円の宿泊料を踏み倒したというので詐欺、窃盗の罪に問われたものだが、両人とも小林裁判長に対し『起訴事実に間ちがいありません』とアッサリ全部の犯行を認めた。

彼らは休憩客や旅行者を装って客室に上り込み、別室の相客がそろって入浴に行ったスキに枕探しをやり、被害者が部屋へ帰らないうちに稼いだ金で室料を支払って逃げ出していたもので池袋の木村家旅館では朝まで稼ぎがなかったばかりに宿泊料が支払えず池袋署の取調べをうけアベック泥棒の事実を吐いたという。

両人とも律義な農家に育ち、昭和二十八年ごろ三ツ木が新聞配達をしながら大宮英語学校に通っていたとき、その真面目そうな姿に年長の百合子が想いを寄せて関係を結び、百合子が自宅から盗み出した六万円を持って岐阜市へ駈落ちし知人を頼って就職口を探したが口はなく、金はたちまち使い果したやむなく川口市へ舞戻り博の自由労働収入で暮していたが、生活の苦しさから今年の春僅かの盗みを働らいて川口簡易裁判所で懲役一年、執行猶予四年の判決をうけ、自暴自棄からアベック泥棒を計画し夫婦手をとって旅館を転々と荒し回っていた。博が川口署へ逮捕されたことを苦にした父親が『世間に顔向けができない』との遺書を残して飛込み自殺をし、母親もまたその後を追うように病死したことが若い二人を悪の世界へ落す原因になったらしい。

二人とも親戚の者にまで勘当同様にされて保釈金はもとより身許引受人さえないため、博は前科ゆえに致し方ないにしても初犯の百合子まで妊娠の身を拘置所につながれ弁護人も国選で裁判を受けているが、拘置所内での教誨が悪夢を醒し更生を誓わせるに至ったのであろう。浅井弁護人も『男は前科があるので実刑は免れまいが、女は何とかして執行猶予の判決を得て更生させたいものだ』といっていた。

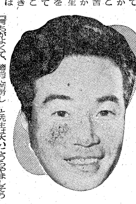
早急に方針を検討
華僑側、報告書問題で

【舞鶴発】二十六日入国管理局が発表した『興安丸問題報告書』について、舞鶴にいる帰国中共人代表呉伯康氏の秘書役楊寿霖氏は同夜援護寮でつぎのように語った。

日本政府が"報告書"を三団体代表に出したというのはいまはじめて聞いた。ともかく早急に電文を見た上で幹部会なり大会でこんどの方針を検討するつもりだ。

魅力はこれだ！ 高島象山師にきく
⑦ 森繁久弥氏

三位一体の相
幸運の星だが人気に注意が肝要



『これはね、キミ、三位一体の相といって福徳円満なジンブツじゃナ。額、鼻、眉のバランスがとれているのがその証拠。おとなしくて人情があり、不愉快なことがあっても、むやみに怒ったりしないから、人望もあり仕事は大成する素質がある。ああ、当節、何とかいう映画で好演して評判の森繁久弥か』

先生は久しい間、しげしげと写真をみつめてから

『ウーム、いい男っぷりだ』

とうなった。

『この人はコメディアンというが性格はむしろ脊気そのものの健全な常識人だ。ケレン味のない人柄、庶民性が喜ばれるんだろう。大体人間の生活には、笑いもあり涙もあるんだが、その生活の味を味わえるのは苦労した人間で多くの人は生活に追われて気がつかない。この人は苦労人だからその生活の味を再現してみせることができ観客ははじめて自分の身近にユーモアがあるのに気がついて感心するといった寸法だ』

『先生はなかなかの批評家じゃないですか』

とおだてれば

『いや、なに、オレの易断があたると感心されるのもそれと同じことで本人の人相、骨相、易に出ている現象を、本人が気づかぬから指摘してやるまでではあるさ。達人ともなれば自ら通ずるものはあるさ。ハハハハハ…』

と大変な気えん。

『育ちがよくて、適当に苦労してしかも優しいときてるから、これは女にもてるね。しかも、なかなか絶倫じゃから、相手は少くない。だが、女蕩しにはドンファン型とカサノヴァ型がある。前のは女をだます方で、後のは女と互にほれ合うタイプだ。カサノヴァは多くの女とほれ合ったが、一人の女にも恨まれていないように、この人も真実一路で行くから、別れてもさっぱりしているはずだ。しかも、女房やこどもを可愛がるから、家庭も円満だという幸運の星を背負っている』

と先生は大いにうらやましそうな面持ちだったが

『だが、注意しないと人気もここ一、二年が絶頂だし、若いころの大酒がいま体にあらわれている』

先生は再び易者にもどった。

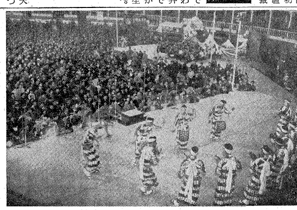


私鉄スト大半が解決
残るは四組合

私鉄総連は年末手当二ヵ月分を要求、きょう二十七日に二十四時間ストを予定していたが、同日早朝までに八十八組合のうち大半が解決、午前十時現在ストに入っているのは島原鉄道、南薩鉄道、中国鉄道、岡山電軌の四組合だけとなった。

回答を拒否、24時間ストへ
富士山麓電鉄

【富士吉田発】越年資金一・九二ヵ月分（二万三千円）を要求、さる二十四日から柔軟戦術を続けていた富士山麓電鉄労組は、二十六日夜の団交で会社側が昨年と同額の一万七千三百円を回答、組合側は無記名投票の結果、同十一時五十分三百四十一対十一で拒否と決定。駐留軍関係を除き二十七日始発から電車、バスとも二十四時間ストに突入した。



娘を蕩し売り飛ばす
ダンスホールに巣食う人身売買団


川部 耕作

池上署では二十七日朝までに港区芝高輪南町六五無職川部耕作(三三)長野県松本市博労町松南マーケット内飲食店主李道棄(三三)同県上諏訪市大手町二九七〇無職滝田健(三〇)同人内妻 芸者置屋 仲倉広子(三〇)同更科郡上山田温泉新世界通り特飲店三鈴店主朝鮮人黄三述(三六)ら十一名を職安法違反の疑いで検挙した。

調べによると川部ら五人は国電品川駅前のダンスホール、パラマウントを根城にする街の不良でそこへ踊りにくる堅気の娘たちをだましては李ら二名を仲介に、滝田らに一人三万円で売り飛ばすという方法で、さる八月十二日夜川崎市東門前三の五三事務員A子さん(一八)に川部が『映画を観に行こう』と連れ出し大田区南六郷の簡易旅館太陽荘に連込み関係を結んだ上、良い勤め口を世話するとだまし、三万円で前記仲倉のところに売りとばしたのをはじめ、さる八月から五人の娘たちを言葉巧みにだましては関係を結んだ後いずれも長野県の芸者屋、特飲店に売りとばしていたもの。

大鉄傘をゆるがす
両国国技館で"うたごえの祭典"

○…全国いたるところの職場などで歌われた"うたごえ"の一九五五年度総決算『日本のうたごえ祭典』が二十七日午前十時から両国国際スタジアムで行われた。北は北海道、南は九州など全国十六ブロックから集った農民、労働者主婦、学生などその数ざっと五万さすがの大鉄傘下も超満員の盛況

○…かたくるしいあいさつもなく会は"若者よ"の合唱ではじまった。ことしのスローガンは『ふるさとの歌を、しあわせの歌』というところから民謡が目立ち、カスリの仕事着、アネさんかぶりで歌い踊る地方代表など色とりどり農村の歌声、主婦の歌声、高校生の歌声と時のたつのも忘れて続けられ、笛や太鼓の地方色豊かな出し物も人気を呼び、一曲ごとに拍手がわいた。【写真は歌声の祭典】

作業中の二名重傷
アセチレンガス爆発

【横浜発】二十七日午前十時半ごろ横浜市西区緑町三菱日本重工横浜造船所で修理中の日本冷蔵会社所有の筑前丸（一一一九トン）機関室で工事中使っていたアセチレンガスが爆発、日東金属工員小笠原千勢穂さん(三七)＝横浜市南区平楽町＝は全身に火傷を負って重体。同じく馬橋憲一さん(一九)＝横浜市神奈川区平川町七七＝も顔、手足に重傷。

繰出したスキー客
早くも谷川岳大賑わい

【前橋発】冬山シーズンに入った上越国境谷川岳連峰は一尺余りの積雪で早くもスキー可能となっているが、二十七日の日曜日は東京をはじめ関東近県から百数十名の『冬山の客』がドッと押しかけた。このうち約百名がヨモギ峠でスキーを楽しみ、数十名が谷川岳に登った。初冬に入り最高の人出。

零下一七・一度
旭川は今冬の最低

【旭川発】旭川測候所の観測によると二十七日朝旭川地方の気温は零下十七・一度となり今冬の最低を示した。

復縁断わられ女中を刺す
酔った運転手 重体

【横浜発】二十六日午後八時三十分ごろ横浜市中区伊勢佐木町五の一五七飲食店『双葉』＝経営者高木みさおさん＝方で戸塚区瀬谷町四六三七中央タクシー運転手平田正夫(三五)は酒を飲んだ上前に別れた女中の栗原清子さん(三四)に復縁を迫まりいい寄ったが、断わられたのに逆上、同家勝手口にあった出刃包丁で栗原さんの下腹部を刺し栗原さんは重体。なお急報により伊勢佐木署員が傷害現行犯で平田を逮捕した。

通行人二人を刺す
新宿に二人組

二十七日午前三時ごろ東京都新宿区三光町五〇先路上で、酔って歩いていた中央区月島西仲通り八の一雅叙園ボーイ差波暉二郎さん(三〇)と台東区谷中三崎町一〇同桜井利清さん(三三)の二人はすれ違ったいずれも二十二、三才ぐらいのマンボ・スタイルの二人組にインネンをつけられ、いきなりジャック・ナイフで刺され差波さんは下腹部に一ヵ月、桜井さんは腕に十日間の重軽傷を負った。四谷署で捜査中。

米兵に殴られ瀕死

二十七日午前一時ごろ北区十条三の三先で友人と帰宅途中の同区十条仲原三の四工員浅見義和さん(二三)は米兵五、六人と些細な事から口論、米兵の一人に浅見さんは混棒で頭を殴られ、近くの病院に収容されたが瀕死の重傷。急報により王子署では同区稲付西山町米国八一六〇部隊E中隊二小隊ボール・ロバート・H二等兵(一九)を傷害現行犯で逮捕した。

不動産で百万円サギ

池袋署では二十六日夜杉並区阿佐ケ谷四三八無職玉野操二(二八)と品川区大井元芝町七〇四塚本長谷雄(三七)の二人を詐欺容疑で検挙した。調べによると塚本は大井に六十余坪の土地と三十坪の和洋折ちゅうの家を持っており玉野の入知恵で品川区南品川六の一四九八鈴木真人さん(四三)に百万円で売り、塚本に『君が知らなかったことにしておけ』と玉野が現金八十万円をとって山わけしたうたがいによるもの。

大山郁夫氏なお昏睡

参院議員平和擁護日本委員会々長大山郁夫氏(七五)＝新宿区戸塚四の六九一＝は脳血せん症で二十五日夜から意識不明となったが、二十七日午前九時半現在なお昏睡を続け憂慮すべき状態にある。

東京競馬最終日成績（農馬場良）◇第一ア（千）❶ヒハヤ（野平祐）1分4秒4❷ギンオウ❸ミスフクイ（単）150円（複）100円130円550円（連）❹—❶480円◇第二サ（千二百）❶オーエスビー（阿部）1分16秒3❷セイザン❸キング（単）200円（複）120円230円820円（連）❹—❷1900円◇第三ア（二千七百）❶ハツリユウ（荒木）3分14秒0❷ミスチカコ❸エース（単）100円（連）❹—❸230円（重）❺—❽—❹490円◇第四サ（二千七百）❶リッツフォラ（竹部）3分6秒4❷ギンカマ❸フクホウ（単）150円（複）110円100円（連）❺—❸200円

後楽園競輪二日目成績◇第一B予（千二百）❶儀賀悟1分39秒2❷菅沼秀❸田久保（単）240円（複）120円300円120円（連）❶—❹321円◇第二B予（千二百）❶山本司1分37秒2❷福島徳❸折原富（単）150円（複）110円224円110円（連）❻—❶1110円◇第三A般（千六百）❶長井賢2分18秒4❷山口和❸田島久（単）410円（複）140円210円190円（連）❶—❹1740円

あすのスポーツ △野球 産業対抗（一時半、後楽園）△重量挙 全日本大学対抗（九時半、中野高校）△馬術 東都大学（正午馬事公苑）△アイス・ホッケー 法対立、慶対明（五時半、後楽園）早対日（十時半、後楽園）△競馬 船橋

こぼれ話



"八犬伝"救急車をうごかす
猟奇雑誌で魔がさしたお嬢さん

数日前のある昼過ぎ大田区田園調布二丁目三菱東京病院の前にケタタマしいサイレンの余いんを残して救急車が停った。また交通事故か……?と折から通り合せた東調布署員がのぞくと奇妙な風景に驚いた。

担架で運び出されたのは顔面を蒼白にしたセーラー服姿の娘さんとキャンキャン泣く愛犬スピッツで目立たぬように毛布をかけ病室へ運ばれて行った。同署員の調べによると――某区高校三年A子さん(一八)で、友人に借りた猟奇雑誌の里見八犬伝を地でゆく今様八犬伝の仕儀となり救急車騒ぎを起したもの。

"大虎"忽ち"猫変"
"奥さん"のただ一言 大言壮語氏泣ッツラ

小春日和の昨二十六日朝十時半ごろ杉並署へタクシーの運ちゃんが一人の酔漢を抱えるようにしてやってき、『金を持っているのに払ってくれません。この男は国電阿佐ケ谷駅前付近から乗り甲州街道に出たらストップを命じました。料金を請求したら百円札をチラリッとみせただけです……』とのこと。この酔漢杉並区松ノ木町の建具職中西和夫さん(三七)＝仮名＝で二十五日の勘定をもらい、ベロベロに酔っ払い、酒の勢いで天下国家を論じ『保守合同や社会党の統一が何んだ』と警察でも大声をあげ『ここはブタ箱か、俺が何をしたというんだ』と署員に食ってかかる始末。見かねた温情? K主任が『奥さんが心配しているから早く帰りなさい』というと酔ドレ氏急にシュンと静りかえり『お巡さん、女房は恐い』と頭をかかえおろおろ声…K主任の"恐妻観術"がズバリ当ったもので、月給日にはめを外した恐妻のんべえ氏、大半はアルコールにきえた月給袋から車賃を払いスゴスゴ帰っていった後姿も哀れなり。

ヘッドライトに無数のぬれ場
警察車、アベックを散らす
道を違え、とんだスカラ座騒動劇

二十五日夜七時半ごろ、丸ノ内署へ『通りがかりの者ですが、いまスカラ座の前でダフ屋が大喧嘩をしていてお巡りさんがフクロダタキに会っています』という急報があった。『それ一大事!』と宿直員十名余りがトラックに乗ってサイレンの音も高らかに出発した。ところが、このスカラ座を誰がどうきき間違えたのかタカラ町ときき間違えて、車は一路皇居前広場へ。『とにかく、ダフ屋が広場で喧嘩するくらいなら、相当大がかりなもの……』と、係官たち緊張の極。突然、それも全く突然の警察の車にあわてふためいたのはアベックたち、何しろ土曜日の夕暮れとあって、こっちの繁み、あっちの繁みは、チュウチュウペチャペチャのカップルでいっぱい。ヘッドライトに照らされて大あわて。結局は"スカラ座"前のダフ屋のゴタゴタ現場にたどりついたが、アベックのぬれ場をタップリと見せつけられた係官たち『俺たちはサイレンを鳴らして走ったがあの中にはベル（オッパイかな?）を鳴らしていたやつもいたろうナ』と勝手な想像をたくましくしていた。

ABCクイズ懸賞発表

正解
A イタリアンガーデンス
B ダミア
C 日本室内装飾KK

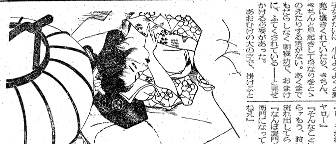
当選者（敬称略）
A賞 ペテロ超小型カメラ 秋本光雄（港区）
B賞 ワイシャツ靴下 清水薫（新宿区） 平井正信（新宿区） 秋谷孝吉（千代田区）
C賞 ピース安全カミソリ 栗田多恵夫（港区）佐藤タマ子（相模原市）小泉正二（杉並区）半沢武雄（千代田区）坂巻富士男（台東区）岩崎道子（横浜市）草野朝夫（長野県）河野真（松戸市）本村康男（品川区）五藤一雄（文京区）



続 情炎の千代田城

岩崎栄　寺本忠雄画　（312）

天城の雲（五）



お静は、まだすっかり明けきらぬうちに西光寺へ戻って来た。

紋次の子分たちや、代官の足軽どもが大騒ぎで、庭の古池を攫いさらっていた。お市が身投げしたと思っているのだ。

やがて、春霞たなびく朝が来た。しかしお静は起き出さずに、いつまでもしどけなく寝くたれているといったふうに擬装している。女役者が、喧嘩のカタにおさえられて来たのだ。それが良家の子女みたいに、小心よくよくと憂愁に攪きくれていたり、きちん、と早起きして身なりをとゝのえたりする筈がない。あくまでだらしなく朝寝坊で、おまけにふてくされている——と見せかける必要があった。

あおむけの大の字で、掛けぶとんからずり出した胸がはだけて、片っぽの乳房か、崩れだした豆腐みたいにのぞきかゝっている。こうした見せかけの、腹の中はしかし、人こそ知らね——で、真剣勝負の前夜みたいに緊張し、思案し続けているのだ。

今夜は果して、どういう運命の蓋が開くのだろう——江戸から偉いお方を迎えて、代官手代の山田孫之丞が戻ってくる。として、さて……なにがどうあろうとも、最後の一線だけは堅く守らねばならぬが、さればとて、あっさり逃げ出したのでは何にもならない。虎児を得るために虎穴へ入って来た以上、ある程度までは、いやなやつの懐に入っておらねばどうにも、攫むものが攫めない。同衾して肌と肌を触れ合うまで行くか——そこまで行ってみないことには何が何だかわかりもしまい。とはいうものの、それは大変なことだ身を汚泥にまみれさすより、もっといやらしいことだ。

けがらわしく、みだらな場合を想像しかけて、むらむらっと木人の唇を想い出した。想い出すというのではなく、唇に、舌に、あの夜の木人の情熱が、まざまざと甦ったのだ。あの夜、白石邸猛火乱刃のさなかでの、ほんの一瞬の、激発した情炎の発作からの抱擁と接吻。その唇の熱と、滑らかな感触と、無精ひげの頬を刺した快い痛みと、力強い腕と、男の素肌からむせて匂った体臭と——、すべてが、いつでも、現実のとおりに生きている。わが唇に、わが官能に、やるせない刺激となって這いずり回っている。

——先生！　おゆるし下さいね

決して、皮膚の下までは汚ごしゃしませぬ——

『親分、駄目だ。死骸はとっくに、狩野川へ流れ出したらしゅうござんすよ』

庭で、そんなことをいっている。

『狩野川？　ふん、この池の水は外の川に繋がっとるのか』

ダルマの紋次が出て来ている。

『あの練り塀の下から入って来てよ、竹藪からまた、西の墓場の方に流れ出す仕掛けでね』

『しょうがねえじゃねえか、バカヤロー』

『そんなこといったって、いまごろァもう、狩野川から沼津の海へ流れ出してらァね』

『なんぼ裏門を固めたって、土左衛門になって水底を潜られちゃあねえ』

『おい、徳っ』

『へえ』

『修善寺から生け捕って来たやつあ、でえじょうぶだろうな』

『へえ、あれァ……と、そこの突き出した部屋ん中で』

『なにしとる』

『さあ、なんしろまだ——こっちゃあこの池の攫いぼりで夢中だったんで』

『まさかあのアマ。よし、おいら見てくる』

日映サロン　映画も楽し　江利チエミ



この前『ジャンケン娘』に出演しないかといわれた時は、大仲好しのひばりちゃんやいづみちゃんが一緒だったので、よし出ようという気になった。それでも内心はやっぱり映画に出るのは余り嬉しくなかった。だから初めのうちは歌だけお仲間入りしようと思っていたのだが、すすめられるままについ全部出ちゃった。もうこれで映画も十二、三本になるかな。だいたいわたしって映画に出るなんて柄じゃないでしょ。にも拘らず、その度にいろいろのいわく因縁で出演しちゃった。

しかし『ジャンケン娘』の時は、皆でワイワイ騒いでるうちに終っちゃったので、初め考えていたよりずーっと楽しかった。おかげで、だんだん映画が好きになって来そうだ。

いま『裏街のお転婆娘』っていうのに出ている『裏街のお転婆娘』って歌はもう皆さんご存知でしょ。わたしも大好き。ところがこれが映画になるっていったら、版権だとかなんとかうるさいことがあって『お転婆娘』じゃなくって『やんちゃ娘』という題名だった。折角大好きな歌の題名の映画だと思ったのに『やんちゃ娘』なんていやだなあと思った。それから間もなくして井上先生が『チエミちゃん、版権がとれてお転婆娘っていう題になるよ』とおっしゃった時には、わたし思わずワーッと声を挙げちゃった。

この映画のなかでは、スイート・アンド・ジェントルだとかセ・シ・ボンだとか、いろいろ私の好きな歌を歌うんですが、特に最近流行し始めて来た『チャチャチャは素晴しい』のシーンでは、チャチャチャ・スタイルの洋服を着るの。『来年はチャチャチャ・スタイルが流行するよ』なんてスタッフの方々からいわれると、わたしが流行の最先端に立っているみたいでまんざら悪くない気持。

よく『マンボとチャチャチャとどっちが好き』なんて聞かれるが、どっちの方が好きなんてことはいえない。ただチャチャチャの方はまだ新しいので、本当の味がつかめなくて困っている。踊りも少しは加えなくちゃいけないし、いまその勉強で一生懸命だ。

泉和助はここにいた　雲隠れの真相は……

"東宝が約束不履行"？　家族の期待も裏切られ憤慨

ヴォードビリアン新谷登改め泉和助が、出演中の日劇ミュージックホールから突然姿を消して早くも十日は過ぎた。劇場側では八方手をつくして彼の行方を探し求めているという。それでは彼は一たいどこに身を隠しているのか？　なんのために？　そして何故舞台俳優として最も悪い手段といわれる公演半ばのドロンをきめなければならなかったか？　尋ねあてた隠れ家で、彼の談話を中心に今回の事件のウラにあった真相を究明してみた。（H）



【写真は泉和助】

◇泉和助が劇場に姿を見せなくなったのは去る十六日のこと。開演真際になっても彼の姿が見えないので楽屋を調べてみると、化粧前が全部片ずけられており、彼が舞台を捨てる真意であることがハッキリした。運営委員会では南道郎を代役に立てて急場をしのぐ一方、彼の自宅（目黒区中根町三）へ使を走らせたがもちろん彼の姿はなかった。しかも『なァーに、駄々ッ子がちょっとイヤがらせに姿を隠したようなもの、金でも入って衝動的に飛び出したんだ。そのうちにまた姿を見せるだろう』（丸尾運営委員談）という楽観説を尻目に今日まで彼は劇場には姿を現わしていない。

◇それでは原因は何か？　というと、根本はミュージックホール側が彼を甘く評価しているという不満であり、直接のキッカケとなったのは、最近目黒に借りることになっていた彼の家の件で東宝が不誠意だったということが挙げられるようだ。この家というのは昨年彼が郷里鹿児島から迎えた母親をはじめ兄一人、弟一人、兄の長男と四人の家族を安住させるために、長谷川東宝演劇部長の承認のもとにすでに手付まで打ってあるものだが、さていよいよ越す真際になって運営委員室が立替える権利金の出費を渋ったというのがことの起り。和助の方は『これだけ劇場のためにつくして来たのに、いまになって五、六ヵ月先にしたらどうだなどと、俺だけでなく家の者の期待まで裏切られては我慢出来ん』といい、運営委員室の方は『多額の前借金がある上に、この上貸したら回収に何年かかるかわからない』というのがそれぞれのいい分のようだ。なお和助のミュージックホールでのギャラは一ヵ月約七万円弱、彼が今日まで重ねて来た借金の額は四十万円に上るといわれる。

◇この点について俳優、踊り子たちの数人は『その位の借金は芸人として普通さ。俺なんかもっと借金があるけどそれでも年中火の車だもの』『和助さんは借り方が下手なのよ。十万円ボンと一回で借りるのと、一万円ずつ十回借りるんじゃ、後の方がしょっちゅうみたいで損なのよ。和助さんはそれよ』『こんどの公演の和助さんの衣裳は新品だったのよ。そしたら俺は四年ぶりに新しい衣裳着られたよって喜んでたワ』などと語っている。

もう戻らない　意外に強固、和助の決意

◇彼は十六日以来ずっと渋谷の某友人宅の二階にひそんでいた。時々浅草や渋谷の盛り場に出て知人にもみつかっているが、隠れているところだけは教えなかった。二十五日深更ようやく尋ねあてた彼の隠れ家を襲うと『いまあんまり喋べりたくないな』といいながらも次のように語った。

『ミュージックホールへ戻る気持ちは全然ないヨ。当分ほとぼりがさめるまではおとなしく脚本でも書いてるサ。殺陣（タテ）やったって、振付やったってメシ食う途はいくらもあるものネ。いま"悪の塔"を"吉田御殿"に書き換えてんだ、ちょっと頼まれてネ。家のことだっていまごろはオフクロたちが安心して住んでいられたのにネ。とに角誠意のない人たちだヨ』

▽長谷川演劇部長談＝原因はわからない。家の方も手付まで打ってあるのだが、本人がいないのに引越しさせることも出来ないからねえ。仮に帰って来たとしても、ワケを聞いてからでなければどう処置するともいえない。

▽宇津運営委員長談＝ぼく個人としては新谷登という名をつけてやったりしているだけに、勝手にまた元の名にもどって一言もないのは不快だ。彼はノイローゼなんだヨ、きっと……。

▽和田たかさん談（泉和助の母）＝家にも全然寄りつきません。深川の親戚にも問合せしているところです。まさか死ぬこともないでしょう。

時代劇を作る人々

長谷川一夫がふところからキラリと十手をのぞかせ、錦之助の振袖侍が祭礼の町をチャラチャラと歩く。そして高田浩吉が粋なやくざ姿、ふり分け荷物で青空の下を歌いながら行く―楽しみながら見過せば何でもない時代劇だが、時代といっても何しろ神代から幕末にいたる広い範囲だけにすぎた昔の物語をスクリーンに再現する苦労は、現代劇とはまた違ったものがある。俳優と監督とカメラマンだけでは映画はできないのだ。知られざる陰の人々―衣裳、メーキャップ、小道具、大道具、スクリプト、殺陣師、馬方、製作進行などの裏話をきいてみよう。

❶ 小道具

一本勝負の"火薬処理"　ときに大火傷も覚悟の上

カラリと晴れ上った晩秋の琵琶湖畔雄松の浜辺。江戸時代初期のものとして最高の技術を駆使したといわれる長さ五十尺、高さ十四尺、幅六尺の黒田藩軍船『鳳凰丸』が、幟流しもの旗をなびかせながら船台の上にドッシリと載っている。すると……櫓、へさき、ともの甲板の数ヵ所に、シュシュシュッと火を噴きながら石火矢がさく裂したと思うと、軍船はたちまちゴォーッと凄じい勢いで燃え始めた。黒煙が小型原爆のようにモクモクと天高く立ち昇る。それは百六十万円かけ、十日間費して建造した本ものを一挙に燃した『黒田騒動』（演出内田吐夢）軍船焼打ちのクライマックス・シーンである。発火寸前まで裏方さんが船上をウロチョロ、火薬の仕掛けを点検していた。この焼打ちシーンがうまく行くかどうかは一にかかって小道具、正式には製作部美術課装飾係の処理如何にあるのだ。

薬の量は天ビンでイチイチ計って記録も残しておく。しかしこの火薬というヤツ、量が同じでも効果は常に同じとは保証できないから困りものだ。風の吹き加減、詰めるケースの大きさ、厚味、置場所によってもいろいろに変る。それに一たん船の上に仕掛けたらテストはきかぬ。本番一回だけで勝負がきまる。それだけに必死だ。万一には大火傷も覚悟の上で、一人はカメラの死角に隠れて船上に残り、効果を見届けて上で向う側に飛び降りるという離れ業もせねばならない。この作品だけではない。高杉晋作や近藤勇になったり、木村重成、真田幸村に扮してそこ〳〵に地雷火の炸裂する戦場を通過したりあるいはノケぞって、虚空をつかみ『ウーン』と悲壮なところを見せる役者をつとめるのも小道具方だ。エキストラは使えない。なぜかというと、火薬に対して馴れてないので、炸裂する前に逃げ腰の姿勢を思わず見せてしまったり、あるいはビックリしてかえって大ケガをやったりするからだ。それにしても火薬を使う映画があると、一人や二人の小道具氏がヤケドや打撲傷を負わないことはまあ珍らしいそうだ。

脚本にはただ一行（両者入り交っての大乱闘）位しか書いてない大立回りの場面がある。さてそのときに得物は何を使うかということで、これがまた小道具の責任だ。殺陣師と相談して刀はもちろん桶やトックリ、天ビン棒などを提供するわけだが、本ものを使ってブンなぐったら、コブ作りだけでは済まなくなる。そこでたとえば木の桶に似せたラテックスの桶を作り、プラスチックの刀をこしらえたり、胸当ての下にスポンジを入れたボール紙鎧を用意したりということになる。刀と刀がガチッとかみ合うとき、アップではどうしても真剣でないと凄味が出ない。そんな時にはとっときの備前長船などの名刀を提供する。火花を出す時は電流を通じてバチッとやらかすのだが、以前エレキに弱くて、通したトタンぶるんと震えて刀を落っことし、危うく相手方の刀に眉間を斬られそうになった俳優がいた。そこで弱い人には絶縁用に極く薄いゴム手袋も調製する。以上殺伐な道具ばかりだが小道具方に必要な嗜みの中には華道、茶道の心得も入る。たとえば点前、活花の手のアップには彼らが高田浩吉、千代之介、あるいは柳太朗のスタンド・インも相勤めるのである。



【写真は『黒田騒動』軍船焼打ちスナップ】

異色の"十代の生態"　洪水の前＝（フランス映画）

映画やぶにらみ

▽…朝鮮事変がヨーロッパに与えた衝撃は、われわれが想像するよりはるかにものすごいものだったらしい。またヨーロッパが戦火に巻込まれてしまうのか？　そうなれば…というヒステリックな恐慌状態に人々が陥った当時を背景に、物語はくりひろげられている。その点黒沢明監督の『生きものの記録』に一種似通ったものが感じられる。一九五四年カンヌで脚本賞（シャルル・スパーク、アンドレ・カイヤット共作）を得た。演出カイヤット。

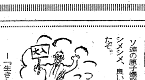
▽…早くもアフリカに逃げ出す金持がいる。その妻（イザ・ミランダ）は女たらしの中年男（ジャック・カストロ）にうき身をやつしている。そうかと思うと平和運動に夢中になって家庭をかまわない教授（ベルナール・ブリエ）もいる。こういう大人たちの子供（マリナ・ヴラディ等）がこの映画の主人公。彼等もやはり戦争の恐怖で何も手につかない。ハワイの島の飾りつけをした秘密の部屋に集っては、レコードをかけ、戦火の及ばない楽園を夢見ている。同性愛の者もいる。こうして来るべき"洪水"におののく、もろいはかない無気力な青春というべきものの姿が描かれるのだが、このあたり大変興味深い。



▽…とどのつまり、彼等はどこかの島へ脱出しようということになる。その資金を得るため中年男の家へ忍びよって珍品の切手を盗むのだが、度を失って夜警を殺してしまう。一種の泥棒ゴッコ的な軽はずみが大変な犯罪を招くわけだが、彼等をこういう罪におとし入れたものに対してカイヤット監督は静かだが激しい批判の眼を向けている。その視野の広さ深さが、同じ十代の生態を描いた『暴力教室』などとははるかに違った一種の香気を漂わせているといえよう一見に値する異色作。（静）

【写真はその一場面、左がマリナ・ヴラディ】

おしゃべり



ソ連の原子爆発　シメシメ、良い宣伝になったぞ。

―『生きものの記録』

今晩のラジオ　27日（日）

時	★NHK第1★ 590KC	★NHK第2★ 690KC	★ラジオ東京★ 950KC	★日本文化★ 1130KC	★ニッポン★ 1310KC
6	00 国会討論会 中村梅吉 灘尾弘吉 勝間田精一 門司亮 根本官房長官	00 チヤイコフスキー≪イタリア奇想曲≫他 30 映画の時間 尾崎宏次	05 これからの投資信託 15 民謡お国自慢 成田雲竹 30 歌謡曲 野村雪子他	00 童話劇『悪いたぬき』玉川学園小学部児童 30 歌のお店 藤井かね子他	00 ❶落語 西条凡児❷漫才 三遊亭小円・木村栄子 30 劇『風雲黒潮丸』
7	00 ニュース◇天気予報 15 録音ニュース 30 今週の明星 藤代京子	00 ジャズはいかが 歌ビショツプ節子 30 村の結婚≪茨城小桜村≫	10 録音ニュース 20 落語❶出来心 柳枝❷お祭り佐七 円生	00 録音ニュース 10 お好みヒツトメロデイ 30 三つの歌 司会田中敏夫	00 ラジオ夕刊（耳の新聞） 20 花のステージ 歌高木礼誠 30 16万円の質問 出題林繁
8	00 ラジオ寄席❶漫才『お笑いカチユーシヤ』英二・喜美江❷落語 金馬 30 私は誰でしょう	05 電子音楽≪芸術祭参加作曲≫黛敏郎作曲 30 スポーツダイジエスト（大相撲九州本場所他）	00 劇『寄席行灯』辰巳柳太郎 大山克巳 千早隆子 30 劇『花束はバラの咲くときに』小林桂樹他	00 三つの関所 司会今泉良夫 滝川虹子他 30 劇『走れよ小馬』木暮実千代 宇野重吉他	00 浪曲落語『三方一両損』広沢菊春 30 素人ラジオ演芸会 牧野周一 来宮良子他
9	00 ニュース解説 安斎義美 15 風流剣士 山内雅人 古畑輝子 山田清他 40 時の動き『開拓の十年』	00 管弦楽のための変奏曲 林光作曲 解説柴田南雄 独唱柴田睦陸 大橋国一 芸大音楽部学生	10 浪曲≪押絵太閤記≫片腕竹中半兵衛 木村若衛 40 佐藤金造とブルー・リボン・アンサンブル	00 歌謡ゲーム 司会大久保怜 白山雅一他 30 雅楽組曲『秋』現代新音楽研究会 柴田喜代子	00 みんなの歌 沢田節子 沢田アナ 30 浪曲名人会『報恩神田祭り』港家小柳
10	15 東京千一夜≪地上の星≫ 森繁久弥 中村メイコ 45 新聞を読んで 土岐善麿	00 科学談話室『日本の資源』 30 引揚者の時間 45 気象通報	05 今日のニュース（毎日） 15 小唄鑑賞 幸子 ゆう子 30 新内『明烏夢泡雪』	00 大学受験実力養成講座 漢文 小林信明 30 入試講座開講の挨拶	00 歌の明星 美空ひばり 岡本敦郎 青木光一他 35 スポーツ・カレンダー
11	10 夢のハーモニー 20 路地の霜 安藤鶴夫作	00 ウラン鉱とは木村健二郎 20 医学トピツク 豊川行平	10 北から南から 録音構成≪李ライン問題≫	00 録音≪帰らざる漁船≫ 30 野菊の如き君なりき	00 座談会『十大ニュース』浦松佐美太郎他

テレビ　★NHK★ ◆6・00 私の望み 糸永吉運◆6・30 テレビ天助◆7・10 家庭かるた◆7・30 琉球芸能の夕◆8・30 落語『天災』柳橋 ◆9・20 アマ写真懸賞発表 木村伊兵衛　★NTV★ ◆6・00 漫画『魔法の城』◆6・15 映画『ひとりの母の記録』◆6・55 暮しのセンス◆7・30 松竹演芸場中継❶曽我廼家五一郎一座『いばら籠』❷『デン助の積立貯金』　★KR★ ◆6・00 猿飛佐助旅日記 ◆6・30 まんが◆6・50 東京テレニュース◆7・00 映画『その人の名は言えない』◆8・40 映画『なんにでもなる豆』◆9・10 週間ニュース

名選 都々逸　石井きんざ選

いつわりの恋と知らずに本気で惚れた 私は本当に馬鹿だった　市川・川崎火呂志

他人じゃなくなる二人になった 今夜のお酒の罪深さ　浦和・尾迫 通天

外套一つを二つの肩に 掛けて歩いた寒い晩　上野・千雨

欲はいうまい逢えさえすれば 思いはせつないペンの跡　文京・木村いつ秋

遠く燃えてる夕焼雲に 母のない児の唄かなしい　長岡・かつらぎ緑

◇

恋と呼ぶにはまだ若すぎる それを大人はとやかくと　選者

はと笛

▽カメラ仲間の岩井半四郎が北京土産の写真個展を開いたのにシゲキ？　された沢村訥升。晩秋の東京風景でゲイジュツ的作品をものそうと劇場の往き帰りに心臓カメラマンぶりを発揮。

▽先日も銀座裏で、夫婦者らしい浮浪者がバタ屋車の中で眠ってる風景にぶつかり、これはイケルとカメラを向けた。彼氏名うての凝り性なので、ああでもないこうでもないと思案の末、鼻っ先まで近づいてやっとパチリ。途端に目を開けた旦那（？）に『この野郎ッ』と追いかけられて一目散とは、芸術写真も辛いもの。



【写真は沢村訥升】

催し　故伊庭孝氏を偲ぶ夕　藤原義江、堀内敬三、石井漠、高田せい子らを発起人として二十九日四時から七時、銀座ライオン・ビアホール。

今年の人気女性　指名投票用紙

投票者住所氏名	人気女性名

送先・東京都京橋局区内・内外タイムス社指名投票係・締切12月30日　内外タイムス社

PR訪問（1）

儲けは第二。まず顧客へのサービスという商法を略してP・Rという。正確にいえばパブリック・リレーション。この道のさきがけをなした有名商社や人を訪ずねて綴ったのが即ちこれだ。

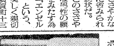
"手を汚さず整髪出来る"　男性のささやかな夢みたす　エンゼル櫛

"手を汚さずにポマードがつけられたら"という男性のささやかな願いが、ささやかな故に省みられなかったのが今日迄の現状だ。

このささやかな男性の願いをみたす為に『エンゼル櫛』という、文字通り天使のように美しく親切な櫛が生れた。新宿区須賀町十三番地『株式会社エンゼル商会』社長原田辰長氏の考案だ。

ボタンを回すと櫛の歯の間から必要量だけのポマードが流れ出るしかけ。"にぎり"の所がタンクになっていて、約一週間分のポマードが入るようになっているが、もちろんつめ替えも簡単だ。"手を汚さずに"ポマードがつけられるから、会社や自宅はもとより、旅行中や汽車や電車の中でも手軽に整髪出来るのが何よりの魅力。

"販売網の確立こそ新製品を生む第一歩なのです"と、小企業の苦労の一くさりに、素朴な確さがある。デパートへいっきに納入し売出したのも、氏の眼のかたさだろう。新春を期して大量生産に入り、ドット、全国的に出回り、手軽に使えるというもの。



オールドファン喜ぶ　浅草五十番の再開

浅草銀座街に今月から中華料理の五十番が開店した。これは戦前浅草名物の一ツだった店の再開、昔を知る人なら誰でも喜ぶ浅草の味、十年の空白を取戻す大馬力の営業振りは誰をも感服させて既に好評。

甘納豆の話

甘納豆でうまいものといえばまず『鈴や』の"甘露降"といえよう。甘納豆も上等のもの程時間をかけて造られるらしいが鈴やの甘露降は実に三昼夜余の時間をかけて造られる。小豆を砂糖で煮上げて砂糖にまぶしたものも甘納豆には違いないが、……

産額は一日三百貫、なるほど工場内のどこをみても甘納豆の山だ。甘党には垂涎の的だろう。

良いものを安くということは道理には合わないが、良いものを適正価格で皆様に召上って頂きたいと、社長小木曽美好氏は言っている。本社は渋谷区上通四ノ三〇。

"業界の雄"貫録充分　『革手袋の名倉』の青年社長

最古の歴史・最高の仕事　業界の草分け・クロードネオン

金電社の電気カミソリ　最古の歴史、最高の使い心地